

校長通信（7月号）

July / 1st / 2025 / VOL 034

「Celebrate Differences and Diversity 違いや多様性を歓迎しよう」

学級活動や課外活動といった学校生活において、僕たちは様々な人と日々関わっています。その中には共通の趣味を持っている人、考え方が似ている人、なんだか気の合う人といった人がいると思います。反対に、自分とは共通点が少ない人、考え方が似ていない人、あまり気が合わないと感じる人もいます。こうした自分とは「違う」人を見た時に、あなたはどんな行動をとるでしょう？

- ① 違いを指摘して、同じ方向を向かせる
- ② 自分とは違うから、そういう考え方もあるから、無理に干渉したり関わらない
- ③ 自分とは違うから、むしろ積極的に関わる

①はかなり強行で自分勝手なように感じますが、意外とこれが大多数かもしれません。例えば、文化祭の模擬店を考える際に意見が割れた時、少数派の意見が軽く扱われたり、そのまま多数派の意見が押し通されてしまうこともあります。あるいは、違う意見に対して「めんどくさいこと言うやつだな～」「空気読めよ～」といったような見方をしがちだったりします。（日本は特にそうかもしれません・・・）知らず知らずのうちに、僕たちは①をやっているのかもしれない。

②はどうでしょう？自分とは違うから、無理に関わらないというのは、一見すると多様性や違いを尊重しているように聞こえます。しかし、実際にはどうでしょう？多様性を尊重すると言いつつ、実際には無関心なのではないでしょうか。今、日本だけでなく、多くの国々で起きていることが、この周囲への「無関心」状態です。自分とは異なる人と関わると面倒だから関わらないというだけかもしれません。これが相手への無関心、周囲への無関心、さらには国や政治への無関心に繋がっているのではないのでしょうか。

③は面白いですね。自分とは違うからこそ「なんだこいつは？」と思って積極的に関わっていくことは、とても自然な反応だと思います。小さな子供が、見たことのない物（おもちゃ等）に対して、最初は怖がりつつも、近づいていきながら手に取り、口に入れたりしながらその特徴を理解し、楽しそうに遊び始めます。こうした新たなものに触れ、受け入れていくことで、学び、新たな視野が身についていきます。高校生や大人の世界でも同じです。自分とは性格が合わなそうな人、生きてきた世界がまったく異なる人、考え方もまったく異なる人に直面した時、最初は戸惑いつつも、気がつくとなんよりも親密になっていたり、親友になっているということも珍しくありません。自分と遠い人ほど、実は自分に必要な人だったりするんです。

僕は20代の頃、オーストラリアに2年半住んでいたことがあります。メルボルンという都市には世界中から様々な人種が集まり、異なる文化や価値観が入り乱れながら共存しています。異文化社会であることによる対立もあり、課題も多くありますが、違いや多様性を承認する風土があったように感じます。そこには、尊重と承認だけではなく、お互いに共存するために倫理観やルールへの高い規範意識もあります。ただ単に自由であったり、ただ単に違いを放任したりするのではなく、お互いが共に生きるために、認め合い、尊敬し合い、ルールを正しく守ることが必要だということを学ぶことができました。

御殿場西高校の「Celebrate Differences and Diversities 違いや多様性を歓迎しよう」という言葉には、こうした想いが込められています。多様性社会を生きるということの本当の意味は、他者や社会に対する高い共感意識と当事者意識が必要となります。無関心の真逆です。利己的な考え方よりも、むしろ利他的でなくてはなりません。地域に根ざした学校、さまざまな生徒が在籍し、海外からも留学生やゲストがたくさんやってくる学校だからこそ、御殿場西高校はこの違いや多様性を認め、学び、混ざり合うことによって、個人の成長と学校全体の成長を実現することができると、僕は信じています。

探究ゼミ（２年）地域活性化プロジェクトいい感じです！

今年から「総合的な探究の時間」では、２年生は「探究ゼミ」に分かれてさまざまな分野で学びを深め、広がっていきます。今年は僕も参戦し、「地域活性化プロジェクト」を担当しています。

２ヶ月が経過しましたが、探究が面白すぎるんです。前はゲストにRegion Portの田近さん、関谷さん、高橋さんと、青少年交流の家から小澤さん（本校卒業生）にゼミに入っていただき、生徒と一緒に考え、アドバイスを送りながら、さまざまな視点で広げてくれました。僕では絶対にできないアドバイスの数々に、自分は無力だな～と改めて実感すると共に、生徒たちは企業の方々にもいろんなアイデアをぶつけられてすごいな～と実感。

学びの枠は教室の外側に広がっていきます。創造し、貢献する学びを生徒と作っていききたいと思います。



国際ポエトリ-交流プログラム

6月16日（土）国際ポエトリ-交流プログラムが開催され、本校からも生徒たちが参加し、オリジナルの詩を披露してくれました。

国際ポエトリ-交流プログラムとは、日本、アメリカ、韓国、フィリピン、オーストラリアの5カ国の高校生が、詩の朗読を通して国際交流を図るプログラムです。本校は第1回から参加しており、日本文化の紹介、御殿場市の紹介などを生徒たちが工夫を凝らしてプレゼンテーションします。詩の朗読の本大会では、それぞれが考えたオリジナルの詩を朗読し、自己表現の場を作り出しています。



「御殿場駅前学園祭」が迫る！

「御殿場ミライ会議」に参加していたシクアラチ旅勇さんを中心として、「御殿場駅前学園祭」を企画しています。学校の枠を超えて、他校の生徒や市内のさまざまな大人たちが協力して、御殿場をより魅力的な場にするという目的を掲げ、今回のイベントを開催することとなりました。学校外のさまざまな人と協力しながら、試行錯誤を繰り返しながら、イベントの計画をしてくれています。たくさんの方々にご来場いただきたいと思います！

日程 2025年7月20日（日）9:00～16:00

場所 御殿場駅前（富士山口）



保護者の皆様へ

いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。6月の上旬から中旬にかけておこなった、保護者会の地区会には非常にたくさんの保護者の皆様にご参加いただきありがとうございました。こうして顔を合わせながらさまざまなお話ができる機会は、私たちにとってとても貴重で大切な時間となります。皆様から頂戴したさまざまなご意見を、今後の改善へと繋げてまいります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

- 〈7月の主な行事〉
- 7/4（金）野球部 壮行会
 - 7/8（火）KIC留学生帰国日 思春期講座（1年）
 - 7/9（水）思春期講座（3年）
 - 7/11（金）薬学講座 校内文化発表会
 - 7/14（月）求人票開示
 - 7/17（木）全国高校総体壮行会 午後三者面談
 - 7/18（金）1学期終業式 午後三者面談（7/22・23）

